	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代 表 者 氏 名	所 属
15	行ってみたい・住んでみたい宇都宮	帝京大学 情報科学科1年代表チーム	
		平出 賢一郎	帝京大学 理工学部
			指導教官 氏 名
			渡辺 博芳

1. 提案の要旨

最近、餃子の街「宇都宮」が全国区で有名になり、これは市の活性化の施策として成功していると思われる。一方で、「第4次宇都宮市総合計画」で目標とされていた「住んでよかった、住んでみたい、住み続けたい宇都宮」は達成したというレベルには未だ至っていない。宇都宮市民が宇都宮市を好きになり、宇都宮市に誇りを持つためにはこのポイントが重要であると考えた。そのために、まず、多くの人に、宇都宮に「行ってみたい」、「住んでみたい」と考えてもらえるような施策を展開すべきである。

そのための施策として、大きく三つを提案したい。一つは「観光振興事業の実施」、二つ目は「住みやすい街づくり事業の実施」、三つ目は「オンデマンド交通システム事業の実施」である。観光振興事業のポイントは、宇都宮を発信地とした栃木県域の日帰り観光ツアー事業を積極的に進めることで、栃木県の観光客が必ず宇都宮に立ち寄る環境づくりをすることである。また、住みやすい街づくり事業のポイントは、街全体にユニバーサルデザインを取り入れて整備すること、居住空間と商業空間の混在する複合施設を市街地と郊外に整備することである。さらに、観光の振興のためにも住みやすい街のためにも、公共交通の整備は不可欠である。そのためにコビキタスコンピューティング時代に適合した公共交通として、「オンデマンド交通システム」を導入するのが有効であると考えます。

2. 提案の目標

本提案は、観光の振興により街を活性化し、高齢者にも住みやすい街づくりを目指すものである。「行ってみたい宇都宮」、つまり、宇都宮を中心とした栃木県内の観光を振興する。「住んでみたい宇都宮」、つまり、定年後の人生を宇都宮で送りたい人を受け入れることで活性化を図る。そして、そのために公共交通を便利にすることである。このような目標を持つ施策を実施することで、全国的には人口が減少傾向にある中で、人口増加傾向を維持し、宇都宮市の活性化を図る。